

発明の名称:生体液中のイオン濃度の測定装置

利用・用途・応用分野

肝疾患・肝不全症治療、検査、臨床医療

目的・課題

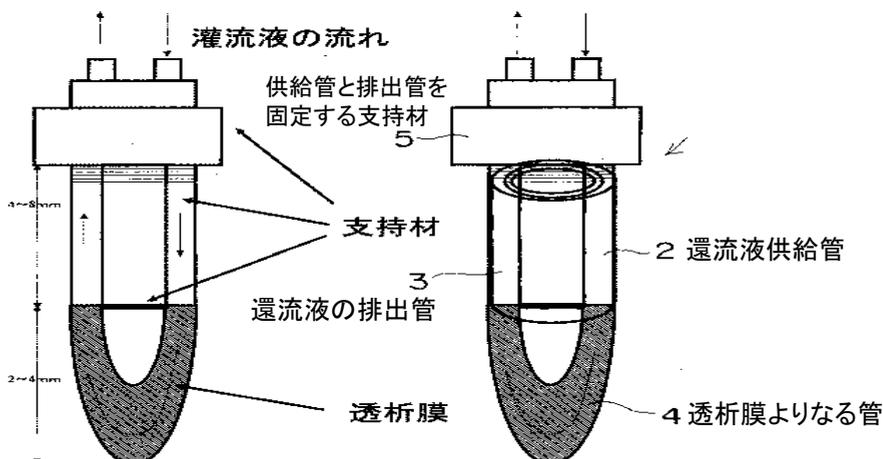
生体内アンモニア濃度は肝疾患の病態コントロールに重要なファクターである。アンモニア濃度の経時的変化をリアルタイムで把握する必要がある。従来は、前処理で手数と時間を要し、リアルタイムで測定や検体多数の短時間処理は困難であった。更に血液以外の生体液測定は実質的に不可能であった。

解決ポイント

生体液採取可能な生体部位に設置した透析膜付きリザーバーチューブ内に、生体液に対する等張液または低張液を還流し得た透析液中イオン濃度を測定。
リザーバーチューブからの透析液は自動注入装置及びイオンクロマトグラフィを直列連結した液流通用パイプを備えたイオン測定装置で測定。

研究概要・アピールポイント

生体液中のイオン濃度、特にアンモニウムイオン濃度をリアルタイムで容易に測定でき、肝疾患の病態変化をリアルタイムで知ることが可能。



【透析膜を付けたリザーバーチューブ】

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp